

講座名（専門科目名）	生化学・分子生物学（分子病態生化学）	
担当教授	菊池 章	
研 究 内 容		
細胞内シグナル伝達機構による細胞応答制御とその異常による病態の解明		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シグナル伝達経路のクロストークによる上皮形態形成制御</li> <li>2. 細胞増殖分化因子の翻訳後修飾と生理的意義</li> <li>3. 炎症応答制御と癌、代謝疾患との関連</li> <li>4. シグナル伝達分子を標的とした新規治療法の開発</li> </ol>		
著 者	研 究 業 績	掲載雑誌・巻・号・頁等
Kimura, H., Fumoto, K., Shojima, K., Nojima, S., Osugi, Y., Tomihara, H., Eguchi, H., Shintani, Y., Endo, E., Inoue, M., Doki, Y., Okumura, M., Morii, E., Kikuchi, A.	CKAP4 is involved in tumor progression as a Dickkopf1 receptor.	J. Clin. Invest. in press.
Matsumoto, S., Kurimoto, T., Taketo, M., Fujii, S., and Kikuchi, A.	Wnt-Myb pathway suppresses KIT expression to control the timing of salivary proacinar differentiation and duct formation.	Development, in press
Fujii, S., Matsumoto, S., Nojima, S. Morii, E., and Kikuchi, A.	Arl4c expression in colorectal and lung cancers promotes tumorigenesis and may represent a novel therapeutic target.	Oncogene 34, 4834-4844, 2015.
Matsumoto, S., Fujii, S., Sato, A., Ibuka, S., Kagawa, Y., Ishii, M., and Kikuchi, A.	A combination of Wnt and growth factor signaling induces Arl4c expression to form epithelial tubular structures.	EMBO J. 33: 702-718, 2014.
Yamamoto, H., Awada, C., Hanaki, H., Sakane, H., Tsujimoto, I., Takahashi, Y., Takao, T., and Kikuchi, A.	The apical and basolateral secretion of Wnt11 and Wnt3a in polarized epithelial cells is regulated by distinct mechanisms.	J. Cell Sci. 126: 2931-2943, 2013.
学生への指導方針	学生に対する要望	備 考
大学院学生の教育では、学生が医学・生命科学上の種々の重要な問題を解決するための研究を自ら行う上で、「研究の進め方」や「研究技術」から「論文の作成・発表」まで研究者としてのトータルな基本能力を修得することが必須です。大学院学生にはこの基本形を修得できるように指導したいと考えています。そのために、本研究室では次のような方針では大学院の指導にあたります。（１）蛋白質化学、分子生物学、および細胞生物学等における実験技術を修得するように指導します。（２）これらの技術は、一つの研究テーマを遂行する上で修得してもらい、修得した技術をどのように研究テーマに応用してその研究テーマを完結させるかを指導します。（３）一つの研究テーマが終了すれば、その成果をいかにして学会や論文に発表するかを指導します。これらの基本的教育方針は医学部出身者と医学部以外の出身者で区別することなく行い、大学院学生が将来、基礎医学・生命科学あるいは臨床医学の分野において独立した研究者として活躍できるようにしたいと考えています。テーマの決定は個人の希望を尊重しますが、研究室の方向性やそれまでの実績に基づいて決定して、責任を持って指導したいと思います。	研究遂行においては、方法論に加えて、「何のために研究するのか」という命題について考えることが大変重要です。これは、研究に対する「構え方」や「立ち振る舞い」のようなものです。研究の重要性は、人類の知的共有財産を増やし教科書に新しい知見を加えることです。この目的達成に貢献するためには、再現性の高い物質的基盤に基づいた研究成果を発表することと考えています。このような意識で研究に臨むことのできる高いモチベーションを持ち、かつ継続できる大学院生の参加を期待しています。	連絡先 <a href="mailto:akikuchi@molbio.bc.med.osaka-u.ac.jp">akikuchi@molbio.bc.med.osaka-u.ac.jp</a> ホームページ <a href="http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/molbio/bc/">http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/molbio/bc/</a>